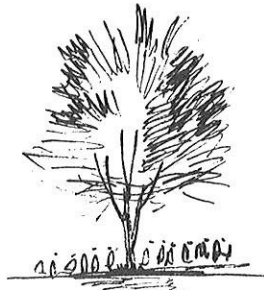


ひかりのこ

光の子



No.111 2004.12. 25

●今年の聖句 悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。(ペテロの手紙Ⅰ：3：9)



クリスマスの祝福が豊かにありますよう

お祈り申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家

挿絵・中島英子

「愛」

頭より愛のセーター冠りけり

愛痛きまでセーターの白さかな

薄ら目を引きて目立ちぬ忘れ咲き

目にとめて心にひらく帰り花

ペチカより生まれし愛の山河かな

風の野の風の高みをさしば斯翔く

聖夜来る光の子らにもろもろに

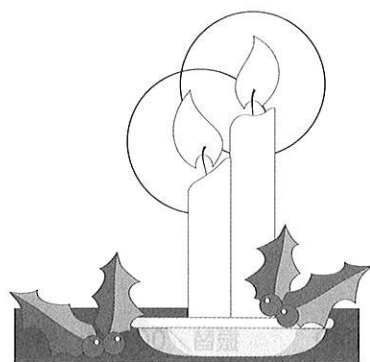
落合 水尾（『浮野』主宰）

20回目のクリスマス

竹花 信恵

クリスマスおめでとうござい
す。
光の子どもの家では、早いもの
で二十回目のクリスマスを迎えま
す。三十八名の子どもたちと皆で
力と想いを合わせて今年の色にク
リスマスが彩られていきます。
十二月二十五日、クリスマス礼
拝として行われるページェント
(生誕劇)は毎年変わることなく続
いています。今年もまた、じっと
していることや、静かにしている
ことや、落ち着いていることが苦
手な子どもたちが増加した中での
聖なるひとときが与えられること
でしょう。立っているだけで充分
なかわいい天使達と、どちらかと
いうと羊になりそうな羊飼達達が
活躍してくれそうです。
年頃の中高生達の多くはハンド
ベルで加わります。ひとりでも抜
けると成り立たない音楽は、この
家そのものを表しています。緊張
感あふれる中、澄み切った自分な
らではの音を出してくれること
でしょう。
創立以来ここに至るまで、かつ
ての主役達、歴代のマリア、ヨセ
フ、博士達がいました。私達の想
像を超えた社会の荒波の中で大人
になっていきます。

昨年の夏、「こんなにちわ」と言わ
れても、いったい誰だろうと思う
ほどに変身をとげて現れたのは十
数年前に家庭に帰った姉妹。姉は
聖歌隊として活躍してくれました。
今のところ彼女を越える歌姫はま
だ見つかっていません。残念なが
ら、今ではカラオケでその才能を
発揮するしかないようですが。ま
た、その前のクリスマスには、彼
女達と同時期に家庭に帰った兄弟
の弟が駆けつけてくれました。彼
は当時三歳。羊飼いの役であり、
羊の群れの番をする場面では、ぐ
っすりと寝入ってしまった。
三歳にして今まで大人に振り回さ
れてきたこれまでの疲れを、素暗
らしい寝顔にかえてみせてくれま
したが進行を少々妨げてしまいま
した。
マリアとヨセフは卒園を控えた
子ども達にお願いしています。四
年前のヨセフはほんのわずかに横
道にそれがちな生活になり、気持
ちもすれ違い、皆との練習に出ら
れず悲しませてしまいました。ギ
リギリの中で、目前に彼がポツリ
と「歌の練習を見て欲しい」と言
ってきました。高校三年生の多感
な男の子がひとり歌うこと、し
かも人よりシャイな彼であり、そ



の彼の深夜に響く美しい歌声は、
幼い頃の笑顔と共に心に焼き付い
ています。本番はその成果を見事
に表しました。
暗闇の中で光が輝くクリスマス。
キャンドルが自らを溶かしながら
自らを無くしながら光を放ってい
るように、光としてきて下さった
イエス様の誕生を、こんな素敵な
仲間達と祝い続けられる喜びを心
から感謝しています。
変わるものと変わらないもの、
変えたいものと変えてはいけな
いもの。二十年という一区切りの中
で変わらないもの、守り続けるも
のの中心にクリスマスの意味をお
いて歩みたいと思います。

学者もどきのつぶやき ⑥5

「自らのこと」

山形大学 仙道 富士郎
学長

自分のことは一番よく分かって
いるような気持ちでこれまで生き
てきた。ところが、自分のことな
ど何も分かってはいないのだとい
うことを六十六才にして改めて気
づかされた。
ことの始まり
は、妻と一緒に
テレビを観て
いたときの
ことである。
一種のクイズ
番組で出演者
達の知能指数
を色々な角度
から調べると
いうもので、
テレビを観て
いる人も一緒
に自分の知能
指数を調べる
ことができる。
「直感力」「問
題解決能力」
……どの視点か
らも、妻は出
演者に比べてもかなり良い得点で、
一方私はといえば、惨憺たる有様
で、最後には解答を避けることに
よって何とか面目を保とうとした
りする始末である。以前から妻が

クイズ番組に強くて、私は極度に
弱いことは分かってはいたが、此の
度は、厳然たる事実と直面させら
れた感じである。
ところで、この経験が一つのき
っかけになって自分のアイディン
ティティーが崩れ始めているのであ
る。知能指数が高くて低くても、
私にとって大事ではないのだが、
今度のことを契機にして「私は何
者だったのか?いま何者であるの
か?」といった問いが、次々と生
まれてくるようになり、段々と深
みにはまっていくようである。
そもそも、自分の顔は鏡を見て
はじめて分かるわけで、自分のも
のの感じ方や考え方も対象化して
はじめて自らが認識し得るもので
あることは理屈では知っていたが、
自らについてそのことを実感し、
それに基づいて自省する作業はほ
とんど行ってこなかったことに気
付いた。「他人の振り見て我が振り
直せ」とはよく聞く言葉であるが、
「我が振り」が自分に分かっていな
いのだから、この警句は意味をな
さない。自らを対象化するためには
他者という鏡を介する以外にな
いということは認識論の「いろは」
だと思うが、これを実際自分にあ
てはめて、内省の作業を開始し、

得られた結論をもとに明日の行動
の動機づけを行うという筋道はど
のようにして樹立できるのか、私
にはまだ分からない。「まだ」とい
う言葉を六十六才にして発するの
はあきらかに遅すぎる。しかし、
遅くても、何かに気づいたことに
感謝しなければならぬ。
此の度の心理変化の予兆はたし
かにあった。中国に十日あまりの
旅をしたときのことである。姉妹
校協定締結や講演などの公式予定
の間には、結構余計な時間が狭ま
っており、ホテルの自室で休みを
とる。普段の生活の中ではほんや
りと物を考えることはほとんどな
い。休日もテニス、テレビとギッ
シリと予定が满满っている。中国
のホテルの一室でベッドに横たわ
りながら、ボンヤリと物を考えて
いると、同じ所を行ったり来たり
また円を描いて循環したりする。
そうした乱雑な思考過程のすえに
辿り着いた一つの自らの言い聞
かせの言葉のようなもの、それは年
令から考えていつ死んでもおかし
くないから、死の床にあるときに
意識があるとして、激しく後悔す
ることをなるべく少なくして終わ
るように今を生きるしかないのでは
ないかということである。そんなことを

言っても、後悔するに決まってい
るのだが、出来ることなら後悔
の深い淵に沈んだままでは死にた
くない。
意識を持つてこの方、あまり覚
悟というものを持ちあわせたこと
がない。いま生まれてはじめてそ
んな大層な言葉では言い表わせな
いが、その周辺の心理状況にある
ことは事実である。これまでは
色々な意味で「虚」の世界をさま
よっていたのかもしれない。「虚」
の世界では、すべてが成るよう
にして成るのだという理解が根っ
こにあり、そこでは人間の意志など
はなかなか入り込む余地がない。
しかし、死は私にとってどうみても
「実」の世界である。それに向
かういま、私はようやく「実」の
世界に踏み込み、意志の一つの表
れとしての覚悟の周辺をうろつき
出したということか。
「光の子どもの家」の感謝祭の
ときに出会った一人の若者の言葉
が耳に残る。「もうそのことを知っ
ている人達はいなくなるのですか
ら、そのことを語ってください。
必ず語ってください。」本当に語れ
るのだろうか。少なくともそう努
めなければならぬまい、自省の作業
を続けながら。

エッセイ

出会い

「出会」「ふれあい」などという言葉は、世の中に氾濫していて、余り魅力のある言葉ではなくなっている。しかし、そうは言っても、不思議な出会いというものが、現実にはあるものだ。

先日、十一月の中頃から一週間、東京駅の近くの画廊で展覧会があった。

私が所属している彫刻の会の、二七回目の秋の展覧会である。これは、春に本展とも言うべき規模の大きな展覧会の後の、小品だけ集めた展覧会で、六十点ほどの作品を展示し、見ていただこうというものである。

春の本展では、みんな力作や大作で競い合うような傾向があるが、秋の展覧会の場合は、ベテランの人達に加えて本展で賞を取った若手などの作品などで、安定していてゆとりがあり、そしてそれぞれ可成り自由な発想で制作するものだから、題材にしても使用する材料や技法などもまちまちで、なかなかおもしろい展覧会になるのが常である。

展覧会を運営する側にとつては、何やかや面倒なことがあるのだが、

彫刻家 中島 陸雄

展覧会が始まってしまえば、もう流れにまかせるより仕方がない。

私が会場番で、画廊の入り口の所の机のうしろに腰かけていると、たまたま、美人のほまれ高いOさんとUさんが居合わせた。

Oさんの話である。

Oさんが十五歳か十六歳の頃、紙粘土で作った粘土細工の作品を、何にも包まずに手に持って電車に乗っていた。その時、立っているOさんの前で座席に座っていた初老の男の人が、Oさんの作品をじっと見つめていたのである。そのうちに電車が混雑してきた。Oさんは大事な紙粘土の作品を落としては大変と心配になってきた。目の前に座っている男の人、しかも、じっとその作品を見つめているその人に「すみませんがこれを持っていてくれませんか。」と頼んでみた。「ああ良いですよ」と、その男の人はあっさり粘土の作品を受け取って、両手で大事そうに持っていてくれたのである。

いくつか駅を過ぎた時、男の人のわきの席が空いた。Oさんはそこに座って大事な作品を受け取った。

そのうち、男の人は胸のポケットの中からたくさんの写真を取り出してOさんに見せてくれた。何とそれはすべて粘土細工などとは程遠い本格的な彫刻の作品の写真である。この人は彫刻家かも知れないと思い始めたOさんに「わっしが作った作品ですよ」と言う。やっぱり彫刻家だったのである。

電車に乗った最初から粘土の作品に関心を持って、じっと見つめていたのも、彫刻家だったからこそなのだ。その事を忘れていた或る時、別な高校へ行っているY君に会った。Y君が美術部にいるということなので、Oさんは例の電車の中でのことを話してみた。

めがねをかけて、体の大きい、立派な風格のある人で……という時、Y君は驚いて言った。「なに？それはH先生だよ。有名な彫刻家なんだよ。そんな大先生に粘土細工の彫刻を持たせちゃうなんて。スゲーなあ。」ということになった。

その後Oさんは、ふとしたことから彫刻を始める事になる。ところが、Oさんに彫刻の手ほどきをしてくれたのがH先生の昔の教え子の人達であった。

そのうちに、Oさんに手ほどきをしてくれた人達の指導が良かったの

か、Oさんの隠されていた才能が発芽したのか、恐らくその両者がバランス良く作用したらしく、Oさんはめきめきと腕を上げていった。極めて自然なカタチで私共の属する美術団体の展覧会に応募し、入選することになっていくのである。

そして、賞も取り、会の中でも安定した実力を、展覧会ことにみせている。H先生は、この会の大先輩であり、半世紀を越す春の展覧会の重要な存在であり続けた。

十五・六歳の頃全く見ず知らずの人に自分の作品を持たせた少女が、長い年月を経た後、またあの彫刻家にめぐり会ったわけである。不思議な出会いと言うべきであろう。

私は、展覧会の帰りの電車で、十年ぶりくらいに出会った中学生時代の友達K君に、この話をしてみた。「不思議な出会いだよなあ」と。K君は答えて言う。「いやいや、狭い日本なんだから、そのくらいの事はいくらでも起こり得るんじゃないか。そう珍しい事じゃないんじゃないかなあ。」

意気込んで話した私はガッカリしてしまった。「そ、そりやそうかも知れないけど、そうひと言で片付けちゃうと、ミモフタモゴザンセンデシヨウ」と言わざるを得なかった。

2つの文化に生きる
44

日本キリスト教団東京大宮教会
バーガー 京子

クリスマスおめでとう。

毎年、教会ではクリスマス聖日の4週間前のアドベントをクリスマスの始まりとして飾りつけをする。しかし世間では十月末のハロウィーンのお祭りが終わり次第、あちこちでイルミネーションが輝き始める。十一月早々、駅前で輝いているクリスマスツリーのイルミネーションを見て、おや、もうそんな時期なのかと何か追い立てられる気持ちになるものだ。もっとも世俗社会ではクリスマスは単にお祭りの一つである。お祭り期間が長ければ長いほど商売も繁盛するといったところだ。

わたしにとってクリスマスは信仰の原点に戻る時、イエス・キリ

ストの誕生日を心からお祝いするために、改めて自分の信仰を省みるときである。

十一月初旬、娘の学校のスポーツ大会応援のために再び訪れた沖縄で、宣教師をしている友達と話をする機会がもてた。彼女と私はほぼ同い年、子どもたちもほぼ同い年で子どもたちが小さい頃は宣教師大会で何度か一緒になった。

最近は何に一度会えればいいほうだった。夫婦そろって宣教師でこれからも2人そろって活躍されていくのだろうと思っていたのだが、この夏突然の事故でご主人を亡くされた。事故から二ヶ月あまりたっていたが彼女はすっかり立ち直っていた。「京子さん、私はなんにもがんばらなくていいのよ。すべて神様におまかせして私に何ができるかお尋ねすればいいのよ。」と静かに語っていた彼女の声は平安そのもので私のほうがかえって励まされた。すべてを神様におまかせすること。これは身を削られるような苦難を乗り越えた彼女の口から出た言葉だった。聖書の御言葉に従い、祈りを忘れることなく生活している彼女の中にその信仰の深さを感じ、私は彼女を尊敬している。

最近、毎日聖書を読み、祈りの本を読み、まともな生活していてもなんとか祈りながら生活しているにもかかわらず、なぜか心のどこかで空しさを感じることもある。あなたはそれでよいのかとどこかで問いかけてられている気がするのである。教会関係の奉仕で忙しくしていることで自分はクリスチャンであることにいつの間にか胸をはって歩いていくことに気づかされている。「あなたはそれでよいのか。あなたがなりたいのはそんなクリスチャンなのか。」という問いがまた、どこから聞こえてくるような気がする。多くの仕事や奉仕をこなすことで良いクリスチャンになれるのだと信じ、それを認めてもらうために、とてもがんばっている自分にもふと気づかされるのだ。そして、そんな時、あの沖縄の友人の言葉を思い出す。「京子さん、なんにもがんばらなくていいのよ。すべては神様におまかせして。」

私が尊敬する人の中に、ある女性牧師がいる。彼女は牧会をしながら時間をみつければホームレスの人たちの所に行つて話をきいてあげるのだそうだ。特になにをするというのでもないが、とにかく話をきいてあげるのだそうだ。そ

れはまさに一対一の関係である。りっぱな信仰だけでなく、「愛」がなければできないことだ。コリントの信徒への手紙Ⅰ、13章でパウロが愛について語っている。「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、予言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようと、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようと、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。」

二千年前、最も低い場所の馬小屋から始まり、もっとも惨い十字架の死で終わったイエスさまのこの世での生涯は「愛」そのものだった。その死が私たち人間の罪の贖いのためだと知らされ、それを信じて告白することでイエスさまと私たちが一対一の関係になる。これからはイエスさまに従っていく。イエスさま、この世に来てくださったありがとうございます。



クリスマス特集

クリスマス

ボクは、ここに来て二回目のクリスマスです。クリスマスにはページェントをやりまします。昨年は聖歌隊をやりましました。今回も聖歌隊です。最初のページェントでは「初めてだから大丈夫。」と言ってもらえたけれど、ボクはもう二回目なので今回は失敗しないでやりたいです。あとクリスマスプレゼントをもらうのは一年間のごほうびだと思ひます。だから一日、一日を一生懸命に過ごすのが一番だと思ひます。

メリークリスマス……！

中二 正

楽しい、楽しいクリスマス☆

このクリスマスはすごく楽しいです。ここに来て良かったなあと思ひるくらい。初めてのクリスマスイブ、ワクワクしてました。翌朝、枕元にリボンでしばった大きい袋が置いてありました。担当者に聞いてみると「きつと、おりこうだったからサンタさんが来たのよ」なんて言うんです。サンタさんってどこの誰なのかなあーなんて、毎年思ひます。もしかしたら神様がサンタになったのかもしれない、きつとそうだと私思ひます。サンタさんとイエス様は仲良しなんだと思ひます。私もサンタさんと仲良くなりたいです。

今年は楽しいページェントが出来ると良

いです。私はページェントが大好きです。神様も大好き。イエス様も大好き。かずきも大好き。みんな大好きです。今年も楽しくなるようにお祈りします。何事にも色々なことを信じて頑張りたいです。

中三 華美

ラストクリスマス

私のクリスマスの思ひ出は、この家に来てからとても賑やかな思ひ出に変わりました。今までは、何となく過ごしてきたクリスマスでしたが、今ではとても大切な日になっています。たくさん仲間や支えてくれている皆と一緒に過ごせるクリスマス。今年で最後になってしまうのはとても寂しいです。

キャンドルサービス、ページェントと今までやってきて、「嫌だな。」と思つたことがありますが、今年で最後なので特別です。来年からは、見る側に立つていて思ひますので今年を精一杯頑張りたいと思ひます。そして、今年は今まで以上に賑やかなクリスマスになればいいなあ。と思ひます。

高三 ヒロミ



クリスマスについて

今年のクリスマスは私にとって七回目のクリスマスで、昨年よりも楽しく過ごしたと思ひます。何回も迎えていくうちにクリスマスの意味などを深く知りました。そして他にも、迎える為にたくさんのごんごなして素敵なクリスマスにしたいです。

中三 香奈

メリークリスマス!!

『クリスマス』と聞くとみんなは、ページェントって一番に頭に浮かぶと思ひます。でも私は一番に『家族』が頭に浮かびます。なぜかという、クリスマスは家族でみんなと一緒に過ごす事だと思ひます。私は、ここへ来るまで、一回も家族でクリスマスを過ごしたことがありません。それまで、クリスマスってこんなに寂しいものなのかな？ と思つていました。

でもここへ来てから、初めてクリスマスは楽しいものなんだと思ひました。みんなと劇をやったり一人一人がメッセージを伝えたり、楽しい話をしたり……家族じゃなくても、私だけじゃなく、みんなが温かい気持ちになれて楽しい時間(クリスマス)を過ごせたらいいと思ひます。

メリークリスマス！

中三 乃衣

毎年クリスマスになると、ページェント、アドベント、その他の行事がとても楽しみになっています。上手くやろうと思つていてもなかなか上手くいかなく、今年こそは上手くいかせたいと思つています。またクリスマスは子ども達と共に楽しく、それでいて去年とは違ったクリスマスにしたいと思ひます。

高二 賢

光の子どもの家のクリスマス

高校に入つて、他の養護施設の子と出逢い、いろいろな話を聞きました。クリスマスの事も話して、「光の子どもの家」のクリスマスがどれだけ素晴らしいものかということがよく分かりました。とても暖かいクリスマスを私たちは毎年迎えていたんだと思うと本当に嬉しかったです。ここでのクリスマスも残すところ少しとなつてきましたが今年のクリスマスも楽しんで暖かい日を迎えられたいと思ひます。

高二 友那

メリークリスマス

私はクリスマスが来るのが楽しみです。なぜなら、クリスマスにイエス様が生まれたからです。私は、光の子どもの家に来てから神様のことでいっぱいでした。みんな

が、イエス様って何？ と聞きました。イエス様って私たちのために命を捨ててくださったのよと言ひました。

かずき君が交通事故にあつてもう一年が経ちました。かずき君は、イエス様のことをよくしりたかったのだみんなに、大人の礼拝に出ていい？ と聞いていましたが九月五日、突然、天国へ行つてしまいました。私は「本当にかずき君が死んじやったの？」と、その日は寝られないほど苦しみました。かずき君が死んでしまつて私は、かずき君の分まで神様の事を学んで、かずき君の分まで生きなきゃいけないんだと自分に言いかけました。その気持ちをみんなにももつてほしいです。

かずき君の分まで一緒に生きよう。

小六 美季



九回目のクリスマス

私は、クリスマスが毎年楽しみです。ページェント、キャンドルサービス……。私のクリスマスのイメージは、プレゼントをもらつて楽しんでいただけでした。二五日は、私たちも楽しみますが、お客様の事を第一として考えています。

ページェントを礼拝として見てくださり、楽しんで頂けたら私はそれだけで嬉しいです。私たち、一人一人の気持ちは変わります。

せん。お客さんを喜ばせる事だけです。

今年は、かずきがない二回目のクリスマスです。私はページェントやキャンドルサービス等をするときは、心の中でかずきの事を思ひながらかずきの分まで一生懸命できたらいいいなあと思ひています。

中一 佳美

クリスマス

僕は、冬が嫌いです。だけど冬とても楽しいことがあります。それはクリスマスです。クリスマスはイエス様の誕生を祝う楽しい時です。クリスマスは、みんなが食事をしても楽しいです。一年に一度しかないのです。とても大事にしたいです。

小六 楚緒

光の子どもの家でのクリスマス

小学生の頃、友達から「クリスマスって何のためにあるんだろうね。」と聞かれたことがある。高校生になった今でもたまに聞かれることがある。小学生の頃だったから「さあ？ なんてだろうね。」と軽く流していただろうけど、今は「イエス・キリストの誕生日だからクリスマスがあるんだよ。」と言ひことにしている。

学校の友達の家でのクリスマスは飲んだり、食べたり、クリスマスプレゼントをもらつたりするだけで楽しく過ごせばいい

という感じだけど、光の子どもの家でのクリスマスは違う。楽しく過ごすのは一緒だけれど、クリスマスの目的が違うし、自分が楽しめればいいという理由でもない。キリスト教ならではのクリスマスのしきたりがあるので、ちょっと面倒くさい。けれどその面倒くさいことも好きになりつつある。それは、年間行事の中で一番大きなイベントであるから、全員が集まつて、みんないろいろな準備をするからだ。このときが自分が一番必要とされている時だと思ひるから、心が温かくなる。

高二 友美

クリスマス

去年は来てすぐにページェントがあつて、すごく忙しいクリスマスでした。去年のページェントは聖書朗読をやりました。

僕は、光の子どもの家に来て、初めて聖書を読みました。聖書を読んでクリスマスの本当の意味を知りました。今まで、クリスマスは、何の日なのか全然知りませんでした。サンタが来て、プレゼントをもらつて楽しいなあーぐらいにしか思つていませんでした。でも、今は「イエス様が生まれた日」と胸をはつて知らない人に教えられます。

クリスマスは、イエス様が生まれた日以外の何ものでもないと思ひます。

中一 龍治

あかり窓

心理室から

朝は布団から出るのが辛い季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

最近私は、就学前の少しずつ文字を覚え始めた子供たちに「お手紙ちょうだい」「お手紙あげるね」と言われ、小学校低学年の子供たちに「九九を言うから競争ね」と言われることが多くありました。「お勉強」と言われると「つまらなくてやらされるもの」と思ってしまうですが、子供たちは知識が増え成長していくのを実感できる時、心から喜ぶんだなあとしみじみと思いました。できなかったことができるようになる喜びを共有させてくれてありがとうという気持ちでいっぱいになりました。

積 みどり

子どもたちの季節 仙道家

子ども達が一年で最も楽しみにしているクリスマスが近づいて来

ました。

小学校四年生の孝大は、一ヶ月半も前からサンタクロースにお手紙を書いていました。幼児達と一緒にお風呂に入っている時の話題も「サンタさんに何をもらうのか?」と言うものが多くなってきたようです。一緒にクリスマスの歌を唄っていると、「もう、年末だあ」と思ってしまう自分は、子どもの心を持っていません。しかし、その心が一歩一歩大人の心へと成長していく姿、サンタクロースが来た時の子ども達の笑顔を見とどけられると言うのが何よりも幸せで、一生の宝物です。

田中 要一

原田家日記

皆様、クリスマスおめでとうございます。

初めまして。私は十月から光の子どもの家の職員として原田家の子どもたちと生活を共にしております。遠藤めぐみと申します。

ここへ来て初めてのクリスマス

を前に、この祝福の日をこの家で

大切な子どもたちと共に迎えることができず心をから幸せに想い、この出逢いを与えて下さった神様に感謝致します。

この家に来て、子どもたちの存在に救われるばかりの毎日の中で、これから自分がこの子たちの成長及び幸せのために何ができるのか、試行錯誤の日々ですが、子どもたちに対して良い影響力を持つ人間になれるよう、私なりに努力し続けていきたいと思えます。

それでは、聖なる夜に皆様のもとに幸せの光が降り注ぎますように。メリークリスマス。

遠藤 めぐみ

季節のおとずれ

市川家

あつという間にクリスマスの季節になってまいりました。

毎日元気いっぱい体を動かし



ている静一君は、お母さんが大好きです。先日、お母さんがいるかもしれない日に、お母さんのお宅を訪ねました。しかし、残念ながらお母さんはいらっしゃいませんでした。今までも何回か行つては会えずということがありましたが、今回はあまりに切ない訪問になりました。

それは、家に帰り、お風呂と一緒に入った時、お母さんに会えずとてもかなしいだろうに「今日はいい一日だったね」と話しかけてきたのです。いい日（お母さんの所へ行けたということ）だと自分言いに聞かせなければ、辛くて仕方ないのだろうと私は想像し、その思いに共感することしかできません。自分の力のなさに悔しさがこみ上げてきた一日でもありました。それでも私には静一が感じているであろう様々な思いに共感し、強い心、弱い心を含めた優しい心を持った男の子に成長していくための応援者の一人でありたいと強く思っています。

市川 美穂

光の中で

佐藤家

佐藤家の中で一番小さい、そして一番いばっている勇気は、食前のお祈りの当番です。他の子ども達がお祈りをしようとすると、「勇君がやる」と叫びだします。皆もそれを解っていて、快く勇気にその役を譲ります。二秒ほど終わってしまってお祈りは、未だに何を言っているのか判別不能です。お祈りだけでなく牛乳を入れるのもスプーンをとるのも、ふりかけをかけるのも自分でやらないと気がすまない二歳の勇気は、もしかしたら光の子どもの家の中で一番自立心旺盛な子どもなのかもしれません。

大きな世界に向かって歩き出している小さな勇気の紹介でした。

小西 剛史

河のほとりで 倉澤家

クリスマスおめでとうございます。

今年も、子ども達と共にクリスマスを迎えることができたことをうれしく思います。

高三のヒロミは、得意の簿記やワープロを活かそうと進路を就職



言う私のことばなど気休めにもならなかったでしょう。そして、十月に二回目の試験を受けました

に定め、九月から就職活動を始めました。学校での成績も良く、部活動では部長を務めるほど友人や先生からの信頼も厚く、どこに出しても恥ずかしくない、自慢の子どもでした。ですから、試験を受ける前から周囲の誰もが、必ず合格する・・・と信じていました。

しかし、試験の二日後に届いたのは「不採用」の通知でした。周囲から「絶対に大丈夫」と言われていただけに、本人の受けたショックは大きかったに違いありません。「あせらずにゆっくり見つけたいよ。人生、何が辛いかわからないからさ、今に落ちて良かったと思う時がくるよ。」などと

が強まりました。

そして、十一月十九日、「合格」の報告がありました。試験と作文の点数は受験者の中で一番という

うれしいおまけつきで。

ヒロミにとって、最後のクリスマスをゆつたりとした落ちついた状態で迎えることができたことを心からうれしく思っています。そして、できるなら社会人となったヒロミと来年も一緒にクリスマスを迎えられたらいいと願っています。

倉沢 智子



家族に関わる その4

菅原 哲男

ベトナム戦争で世界の耳目を集めた一九六〇年代後半から七〇年代にかけて、アメリカの家族問題が顕著になり、一九七〇年代半ばには二組に一組の夫婦が離婚し、六名にひとりの子どもが両親の離婚を経験するという家族の崩壊現象が報告されている。子連れの再婚や性体験の低年齢化などの社会現象から一〇代での婚姻外の出産が多発して社会的な問題となっていたものである。このとき、社会学や心理学などの多くの研究者たちがフィールドワークを含めた真摯な研究や開拓的な試みなどを繰り返して、家族心理学などの分野での大きな発展とその成果が得られたことは、我が国の研究者たちによってそのお裾分けのように紹介され続けている。

一九八五年、アメリカカリフォルニア州フエニックスにおいて精神科医で家族療法家のミルトン・エリクソン博士の業績を記念する大きな心理療法に関する大会がもたれたことなどが契機となり、心理療法家相互の交流が大きく促進されてきたのであった。

そういう意味では、アメリカの研究

を受けた人たちの治療について真剣に取り組んできたことを物語っている。

この十一月、奈良市において第五十八回全国児童養護施設施設長研究協議会が約六百人の施設長、主任、児童相談所関係者、研究者などを集めて開催された。

その第一研究部会で「ファミリーソーシャルワーカーの役割と機能」について、という集まりで光の子どもの家の取り組みの経過の報告を行った。

この研究部会はこの大会で最も多くの参加者を集めたのであるが、それは、この四月から各児童養護施設などにファミリーソーシャルワーカーの配置が行われ、その内容について多くの施設や関係者たちが試行錯誤を始めたことを証していると考えられた。児童養護施設で子どもをまっすぐに育てるについて、家族と関わることをしないできただ半世紀余の事実がかなり重い課題として子育て現場に表れたことでもあるのである。

社会的な養育が必要となった原因は、子どもたちにはなく、家族そのものにあるという意味で、社会的養護問題は家族問題である、という私たちの課題

設定が初めてこの国の政策に登場した、記念すべき「元年」ともいえるのである。

そうであるから、児童養護施設が家族に関わるという、ファミリーソーシャルワークは、徹頭徹尾、児童養護施設が行うべく計画し実施しなければならぬことなのである。

しかし、この研究部会において多くの話題が児童相談所との連携などに集中したことであった。そのことは、児童養護施設の現場では未だに児童相談所を頼みにしている傾向にあることを確認させられたのである。

児童養護施設が主体的に家族に取組むの計画を立案し、そのプロセスで必要な児童相談所との連携をしなければならぬことは言を待たないのである。

しかし、計画のはじめから児童相談所の方をみているようでは、児童相談所がこれまでしてきた、あるいはしてこなかった轍を踏んでしまうであろうことを危惧するのである。

具体的に子どもの生活の実際を知るよしもない児童相談所と、暮らしを丸ごと抱えて苦闘している児童養護施設には、認識や課題など全く位相を異にするものであることをもう一度確認しなければならぬ。そのことは、十一月末に上梓した拙著「家族の再生・

ファミリーソーシャルワーカーの仕事」

に、事例を示して詳述したが、光の子どもの家で一緒に子どもたちの暮らしと関わりながら、子どもたちの成長過程に必要なその家族に取り組んできた職員の中にも、児童相談所がどう言うのか・などという者もいないわけではないので、かなり困難なことではあるだろうが。

児童養護施設が「すべて児童は、等しくその生活を保障され、愛護されなければならない」という子どもの権利を保障する国および地方公共団体の責務が、地方自治体の首長による措置に交換し、児童相談所長に委任された措置権の行使として表れ、委託というその責務の丸投げ状態が続けてきた私たち児童養護施設に関わる者のこれまでを厳しく顧みなければならぬ。その責任を明らかにしながら整理して、主体的な家族関係への関わりを進めていかなければならぬ事態にいたっているのである。

これを好機とし、児童養護施設に措置委託された子どもたちの、自立過程に必要な家族関係への関わりを、当該の児童養護施設によって立案実施される過程において、子どもたちの様子よりは、県庁所在地を眺め続けてきたこれまでのあり方を、転換する視点を確立しなければならぬ。

現場から

続・光の子らしく

14

岩崎 まり子

クリスマスおめでとうございます。皆様の温かいお心遣い、お支えに心から感謝申し上げます。

イエス様のお誕生日を待ち、心静かに自身と向き合いつつ過ごさずのアドベント期間に入りました。十一月二十八日に第一アドベントが終わり、十二月五日は私たち佐藤家がプロデュースする第二アドベントの夕食会です。

日々の営みに加え、生活の彩りやアクセントになる行事の準備をしていくというのは、楽しくもあり、また慌ただしくもあります。

こうして書く『慌ただしい』とはよく考えられた漢字だなあと

合わせは、いかにもという感じがします。さて、その第二アドベントで何をしようかという話し合いの場面。わざと大声を出したり、音を立てたりして話し合いを妨害する子ども、それを必要以上に大声で注意し続ける子ども、多数決の結果自身のやりたいものが却下され、いじめて「もう、うち何もやらない! 訳わかんない!」と泣きわめく子ども……。そして、騒音の渦に巻き込まれ「そういうこと言わないでくれる?」等と、小学生相手に真つ向勝負してしまう私。「やれば楽しくなってくるよ。」と穏やかに諭す中学生や若い職員に教えられ

ることしばしばです。

少し自分の立ち位置をずらしてみれば、どの子どもも泣いたりわめいたりすることもなく、皆が良い気持ちで話し合いに臨めたのだという事実が気付かされ、後悔し落ち込みます。更に始末が悪いのは、そんなことを繰り返してしまふことです。この時期は特に私の準備不足の心が、皆の放出する、あるいは放出されずにいる感情のエネルギーを受け止めきれず、跳ね返してしまうような関わりをしてしまふことの何と多いことか。

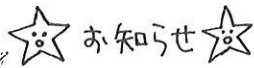
先日も、全く話を聞かない丘実ちゃんをかなり厳しく叱ってしまいました。反抗的な態度の和らがない6歳の子どもの姿は、とても悲しいものがあります。悲しくて思わず抱きしめ、「丘実ちゃん、は、とっても大事な子どもなんだよ。



時間追われ、日々に追われ『慌』しく生活し、それに子どもたちを同調させてしまっていたことに気付かされたこの時から、もう一度やり直したいと思います。本当に大切なことは、そう多くはないのです。それを自分自身に言い聞かせながら、生活を創っていくたいと思います。

とっても大切なんだよ。」と言うと、彼女も嗚咽を始め、しゃくりあげて泣き出しました。本当は、私が生活の中で彼女にそれを実感させていないのが悪いのに、叱られるようなことをさせてしまうのが悪いのに、申し訳ない思いで一杯になります。

創造的な話し合いにまともに参加できず、大声を出すことでしかアピールできないような、あの子のためにこそイエス様は生まれま



来年度も基準外職員確保のための
バザーを行います。
バザー用品のご協力を
よろしくお願いします。



✠光の子どもの家バザー実行委員会✠

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

8月1日▶平成16年9月末日

2004年8月
幼児10名小学生13名中学生8名高校生6名措置外4名
計41名
1日～3日
東大宮教会夏期学校小学科赤城バイブルキャンプへ
5日～7日
幼稚園児グループ茨城神栖へ 初めての海水浴
7日 児童養護施設同仁学園より職員2名来訪、見学
9日～10日
お盆帰省開始
10日～13日
原田家東伊豆へ 海水浴、波乗り、大満足の日焼け顔
11日～15日
仙道家秋田へ 海へ湖へ盛り沢山のみのく旅行
11日～14日
佐藤家 府川様を始め皆様のご厚意で湯河原海水浴
16日～18日
グループホーム市川家宇佐見へ海水浴
24日～中3受験に向け特別学習会を3日間
25日 川越児相訪問調査
27日～28日
聖学院大学ワークキャンプ
30日 江森理容店様散髪ご奉仕二学期前のお心遣い。感謝
夏休みさよならパーティー

9月
1日 二学期始業式
5日 渡部かずき1周年記念会、夕食会
第1部はクラスメイトをご招待。第2部は夕食会
夜は子どもたちと職員で祈り21時48分黙祷
7日 カリフォルニア大学研修生パメロ・コスタレス、トニー・レオン送別会
13日 自立支援計画見直し開始 この夏までの成長を確認し
自立への更なる課題の克服を願い全職員で
14日 埼玉県子ども家庭課職員来訪補助事業ヒアリング
16日 ヒロミ就職試験へ 社会へ向けて第一歩
18日 原道小学校、東小学校運動会 徒競走、お遊戯、小さな身体をはずませ笑顔がキラキラ
25日 大利根中学校体育祭、久喜養護学校体育祭
不動岡誠和高校文化祭
27日 石川県職員研修で菅原施設長講演
29日 大利根中学校教師との連絡会
30日 読売新聞社来訪夕食のひとときを取材
＜8月、9月の物品ご寄贈者＞
若柳慶久美 若柳兆慶 若柳紫邦 中島たつお 小松 堀切京子 丹羽倫己 小林 栗原和子 若林由子 松本明子 鳥越宏子 永沼邦子 鈴木重義 根本勝美 他多数の各位様皆様の
ご厚意に心から感謝してご報告致します。(くら)



☆クリスマスの喜びと祝福のご挨拶を
致します☆イエス降誕の頃、皇帝ネロ
によってもたらされた血生臭い歴史が
未だに終わらないような、内外共に血
塗られた今年も終わります☆二年ほど
前の朝日新聞に加藤周一が「世界を知
るためには科学、世界を変えるために
は信仰なのかもしれない。」とコラ
ムに書いてあったのが今も鮮明です☆
その信仰の差異がまた新たな争いをも
たらす危険も含みながらも新しい歩み
に希望を持ちたいものだと思っていま
す☆皆様のお支えによって実現するこ
とができてきました光の子どもの家の
家族関係への取り組みをまとめた「家
族の再生」を言叢社から第一アドヴェ
ントに出版いたしました☆お手にとつ
て収穫をご確認していただけると幸い
です☆世の中が暗さの度合いが深まる
につれて光の必要が切実になります☆
光としてのほたらきや暮らしをつくり
漂流するこの国の家族の道標になる、
という創立の精神を再確認して新しい
年を迎えます。ご加勢を更に！(哲)